

宝塚市自立支援協議会 専門部会「けんり・くらし部会」【地域移行 Gr】

平成 29 年度活動結果報告

I. 開催日時	第 1 回	平成 29 年 6 月 29 日 (木)	13 : 30 ~ 15 : 30	出席者	11 名
	第 2 回	平成 29 年 8 月 8 日 (火)	13 : 30 ~ 15 : 30	出席者	10 名
	第 3 回	平成 29 年 10 月 17 日 (火)	13 : 30 ~ 15 : 30	出席者	11 名
	第 4 回	平成 29 年 12 月 20 日 (水)	13 : 30 ~ 15 : 30	出席者	9 名
	第 5 回	平成 30 年 2 月 13 日 (火)	13 : 30 ~ 15 : 30	出席者	13 名

II. 要旨

第 1 回 けんり・くらし部会 地域移行 Gr (29.6.29)

1. 委員紹介 (自己紹介) ※委員名簿をもとに自己紹介

2. 宝塚市の今後の施策について

障害福祉課より、自立支援協議会の在り方について、市が検討している今後の福祉施策についての説明があった。特に、市民福祉金がなくなることに對しては、「今後もしっかり協議してほしい」、「3 障害すべての方が利用できるよう初期計画段階から盛り込んでほしい」等意見が出た。

3. 前年度の振り返り

施設・病院からの地域移行を考えた際、それぞれに課題は違うことを確認し、S 委員の家族の話を事例として取り上げ、病院から地域移行するまでの流れやその難しさ、きっかけなどを聞いた。そこで、任意入院の方へのアプローチの方法を検討することとし、病院の取り組みの実態を聞くことを予定した。しかし、いざ話を聞き病院側が宝塚に退院させたいとなった場合、宝塚では受け入れができるのか、受け入れる体制は整っているのかという不安の声も一方で上がった。

4. 今年度のけんり・くらし部会 (地域移行 Gr.) の方向性について

昨年度の振り返りであげられた不安の声に對し、どのような体制や課題があげられるか、それらに對しどのような対応を取ることができるのか具体的に考えた。

○24 時間体制があれば安心できる。

⇒夜間対応のある訪問看護を活用してはどうか。訪問看護は周知されているのか？

○住居確保が難しい。家族では限界がある。

⇒地域移行を利用し住居を探す。民間で住居探しや契約代行をしている所もある。

○地域移行に失敗しても戻れる環境があれば安心できる。

⇒病院はベッドの空き状況や、それぞれの方針もあるので、いつでも受け入れできる体制を整えておくことは困難。

○夜間など緊急時の対応がわからない。

⇒内科的・精神科的どちらのものなのかを判断。緊急事態だと判断した場合には、迷わず救急車を要請。17時～翌9時であれば情報救急センターに問い合わせることもできる。  
また、近隣のスーパー救急を利用することもできる。

## 第2回 けんり・くらし部会 地域移行Gr (29.8.8)

### 1. 前回の部会の振り返り

長期入院の中でも任意入院に焦点をあてた時、病院の取り組みだけでなく、地域の受け皿としての役割や体制を改めて検討することが必要となった。そこで、今回は“架空のAさん”を設定し、Aさんが地域に戻る際にどのようなニーズがあるのか具体的に確認し協議を行った。

レジュメを見ながら、前回出た意見を確認。他にニーズがないか問うと、病院のケースワーカーとの関わりや、地域の民生委員とのつながりに支えられたという意見があがった。

### 2. 意見（ニーズ）に対し具体的な対応を検討

具体的に退院後の生活イメージを持ってもらうためにどうすればよいか協議。こむの事業所の居住サポートや伊丹市にあるアイ愛センターでの体験宿泊、ウィークリーマンションを借りての体験などがあがった。また、入院中でもデイケアを利用し、買い物や洗濯等、日常生活訓練ができることも提示された。

夜間の不安に対しては、前回も24時間対応の訪問看護事業所があげられたが、夜間すぐに連絡がつくとはかぎらないことや、眠れないときに色々と考え不安になってしまうことから、24時間の電話相談窓口がないことをはじめ、課題が多いことが確認された。

住まいについては、やはり保証人の問題が大きくなった。保証人は貸主のリスク回避の為に必要であるため、いかに理解のある管理者を増やしていくことができるかがカギとなってくる。また、空き家の活用も考えられるとなった。

地域への理解に関して、研修や啓発活動をしなくても関心のある人しか集まらないのが現状。学校と連携し子どもを対象に話をしたり、民生委員と個別のケースをもとに対応を検討することも考えられるとなった。宝塚市でも災害時の要援護者支援制度が始まるが、対象者の同意を得ることができれば民生委員による自宅訪問が可能なこと、また、現状として機会は減っているが、管轄派出所の警察官が巡回訪問し、家族の状況等を把握していることもあげられた。

退院にまつわる家族への説明について、本人の意志が強いと原動力ともなるが、一方で家族から反感を買うこともある。社会資源を利用し、相談支援事業所・ケアマネ・市役所職員・地域の福祉サービス事業者等たくさんの力を借りることで実現できることもあるとの意見も出された。

### 3. 次回の部会について

今後の動きなど段取りを整理し、まとめる。病院を呼ぶ際の必要事項を再度確認する。

### 4. 今後の予定

29年度 第3回けんり・くらし部会（地域移行グループ） 10/17（火）13：30～15：30

29年度 第4回けんり・くらし部会（地域移行グループ） 12/20（水）13：30～15：30

29年度 第5回けんり・くらし部会（地域移行グループ） 2/13（火）13：30～15：30

## Ⅲ. 今後の展開

今までの協議事項や意見交換を整理しまとめ、病院側に話を聞く段取りを整えていく。また、病院を呼ぶ際の質問事項の再確認を行い、呼びかける病院を決めていく。

地域・病院双方の現状を知ることで、地域移行を阻害している要因を検討。今後、宝塚で地域移行を進めていくうえで必要となることを検討していく。

## 第3回 けんり・くらし部会 地域移行G r (H29.10.17)

### 1. 前回の振り返りについて

前回はより具体的にイメージができるように架空のAさんを置いてその中で何が必要なのか、そんな支援が必要か、何がないと困るのかということを挙げていった。その中で、退院してからのイメージが湧かないのではないかと、夜間の不安、訪看の部分でも、訪看に来てもらうほどのことではない時に相談して対応してもらえないと不安なのではないか。住居の確保がなかなか難しいのではないか。地域の理解、戻る場所(地域)での受け入れがうまくいかないことがあるのではないか。本人が退院したくても、「何かあったら対応してくれるんですか？」などの家族の反対等の課題があがった。

生活イメージに関しては病院のOTで対応することも考えられるし、宝塚市内の緊急避難的な場所として置いてある場所を活用することや、ウィークリーマンションのような所を借りてそこにヘルパーを派遣するようなことができないかという意見も出た。夜間の不安に対しては24時間対応の訪看の利用は可能性があるが、訪看さんに対応してもらうほどのことでない時間に関してはまだ課題として残っている。住まいの問題に関しては、保証人の問題がある。障がい者を理由にした拒否は差別解消法に基づき、表向きはできないことになってはいるが、総合的に考慮してお断りされた場合はどうしようもないこともある。なるべく理解のある大家さんを見つけ、実際に受け入れておられる方の情報を得ることが必要である。地域の理解は永遠の課題で難しい。関心のない方は研修をやっても来ないことが問題としてある。家族への説明も地域の受け入れがきちんとありますよ、家族だけが支援していくわけではないということを伝えて理解してもらうことになる。

そのような課題をあげて、解消できることは意見を挙げていった。

### 2. 今回の部会検討内容

### ①質問項目の再確認

まずは実績や、任意入院の期間、どれくらいの方が退院されているか、各病院の退院支援の取り組み、任意入院に限ってはどんな対応をしているか、本人の退院への意向確認や退院後のイメージを持ってもらうための取り組みをしているか。

任意入院の方に担当のケースワーカーが付いているか、地域移行が進まない理由や地域に戻れない理由がどういうところにあるのか、病院側が考えていることを聞きたい。地域に望むこと、地域にこういうことがあれば退院できる人が増えるということ、どのくらいのことであれば、退院できそうかということ。

あとは退院支援について。病院は退院に向けての支援をしていると思うが、地域の相談支援との連携について、役割分担などを確認したい。外部のピアサポーターの受け入れの状況。

前提としては、病院を糾弾するような形ではなく、業務で来ていただく以上は、来てよかったと思っていただけるような、関係づくりができ、顔を知ってもらって気軽に相談できる、こんな取り組みがあるのか、社会資源があるのかと知ってもらって、実際のケースに役に立つ、継続して行くことのできる会にしていきたい。

#### ○事務局より他の意見を確認

外部の研修に参加され、イギリスでの取り組みについての意見が上がった。当事者も大変だけれど、家族も大変、家族丸ごと支援をしていこうという支援。日本でもまだすぐに広がる様なものではないと思うが、日本でも可能なものは探っていくことはできるのではないか。対話を重視している支援で、寄り添って支援をしていく。だいたい家族とうまくいかないケースは多いが、それは、やはり本人の気持ちになれないことからきている。地域移行して、サービスを整えて、皆からの支援を受け、もう大丈夫だと思っても、精神特有のトラブルがある。親でも理解できないこだわりがある。例えば、ヘルパーさんがきちんと時間通りに来て、きちんと料理をやってくれても、その過程で傍から見るととても失礼なことを言ってしまうたりすることがある。精神障害のことを理解して下さるヘルパーさんとは可能。しかし、精神障害に理解がないと非常に大きなトラブルにつながるが多々ある。このような取り組みを宝塚でも進めていき、徐々に訪問看護ステーションの中にデイケアができたり、みんなで話し合える環境ができるといいと思う、といった意見が出された。

また、相談支援事業所へ退院したいという希望を本人が伝えてこられるケースよりも、病院を通じた場合が多いが、病院との間に入ることで、上手く進んだケースもあるので病院にとってもメリットになるといった意見も出された。

### 3. 部会に招く病院の検討

宝塚市民で、精神科に任意入院している方の入院先のリストから声をかけていく病院を探す。

西宮、伊丹、三田、神戸市北区あたりでお世話になっている地域を絞って検討したらどうか。

○医療の現場の様子、入院患者さんの様子を教えて頂きたいのでということで意見交換がしたいということが一番に置いた方が良い。必要性はあるが、現状できていないことを、なぜできないの

かという所を掘り下げて丁寧に関わっていく。

○病院での成功事例が知りたいですね。どのような努力があったのかを聞き出せたら、とても分かりやすいですね。

○障がいを持っていても宝塚で安心して暮らせるために、保健と医療・福祉の連携を進めるための意見交換会にします。という大前提で行いたい。

#### 4. 次回の部会について

情報交換会は病院にお声をかけるとしても、前もってお伝えし、調整が必要だろうし、出やすい時期等があるかもしれないので、次年度の初めでも良いかと思う。

#### 5. その他

淡路島や豊岡の地域移行が進んでいる理由について質問が出た。

→淡路や豊岡は範囲が決まっていて、病院から地域が見えやすいのではないかと。支援者の顔も患者さんの顔も良く見える、そういう地域性が要因として大きなものがあるのではないかと。一緒にやろうというピアサポーターの育成も大きい。

### 第4回 けんり・くらし部会 地域移行Gr (H29.12.19)

#### 1. 前回の振り返り

精神科病院に長期かつ任意入院されている方への取り組みを病院関係者に来てもらい、話を聞こうという流れで進めている。前回までの部会にて実際聞く内容については、地域移行の実績、それぞれの退院支援の取り組み、意向をどのように汲み取っているのか、担当ケースワーカーの有無、地域移行が進まない理由、地域に望むこと（受け皿）、社会資源を活用するための連携、外部からの支援の有無、家族への支援、実際に関わったケースの中で工夫したこと等を聞いていきたいとの意見がまとまった。本日は招く病院や病院側に送付する依頼文、趣旨説明等を部会で共有し、検討していく。（日程を含めて）

#### 2. 次回の部会の内容について

##### (1) 呼びかけを行う病院について

・(部会長より)保健所から以前提出して頂いた資料をもとに、任意入院の患者が多い病院を中心に声かけを行う。また前回、県内でも地域移行の先駆的な取り組みをされている豊岡市や淡路市の話が挙がった。

⇒今後の継続的な連携を考えて、まずは近隣の病院中心に宝塚三田病院、有馬高原病院、有馬病院、伊丹天神川病院、この4つの病院に加えて、兵庫こころの医療センター（子どもの思春期外来がある）に呼びかけをする。

##### (2) 文章の作成について（配布の資料より）

・病院への説明文の他に質問項目については別紙で用意を行う。明らかに答えることができない項目は省く。資料に記載する項目について簡単に記入を行う。(当日こういった内容を聞かせていただきます、との記載を行っておく。)

- 質問項目**
- ①実績 (1年以上入院されている方について、データとして挙がっていること)
  - ②地域移行を妨げる要因
  - ③地域に望むこと
  - ④退院支援の連携について (行っていること、退院させるにあたって困ったこと等)
  - ⑤ピアサポーターの受け入れについて
  - ⑥自由記述

- 当日質問する内容**
- ①各病院の退院支援の取り組み、退院支援のアプローチ
  - ②担当ケースワーカーの有無
  - ③成功事例のケース

(部会長より) ピアサポーターはどのような流れで病院へ入っていくのか?有償だろうか?

⇒病院や相談支援事業所よりお声かけがあったら病院訪問や喫茶店(レモンツリー等)で話を聴くこともある。有馬高原も宝塚三田も天神川もピアサポーターで話にいていたが、なかなか続かない。お呼びがかかれば、対応するが、多くの方が3カ月で退院される。病院側が患者にお声かけはしてくれているが、定期開催ができていないので、希望者が少なければ、病院側からのお声かけもなくなる。個人からは費用はもらわない。委託を受けた機関からいただく。市や病院、福祉事業所が協力して、ピアサポーターが活躍されている。

⇒実際の様子としては、病院に行って、簡単なゲームや自己紹介をしながら、グループに分かれて、自分の想いや話を聞かせていただき、アドバイスをしたり、みんなで話を聴き合っている。普段話をしない方が自分のことよく話される姿も見られる。

(部会長より) 家族への支援は病院によって差があるか?

⇒もちろん病院側の姿勢も大切だが、家族も一歩踏み出して、看護師や相談員に声をかけることで、道が開けた。そこで支援が繋がったように思う。医療保護入院には退院支援促進の相談員がいるため家族との調整ができる。月一回の家族会を行っている病院もある。当事者が家族に自身の経験を話してくれたことがあったので、その中で質問し合ったり出来たので今後(退院後)の生活を描いていく上で横の繋がりもできたので非常に助かった。地域にも家族会(宝塚家族会)があることもそこで知った。家族が動かないと繋がらない現状はある。まずは相談することでどこかに繋がる。しかし、

多くはまずどこに相談したらいいかわからない。

### (3) 具体的な日時の確認

(部会長より) 今年度は送付する文章等の確認を行って、次年度病院に来ていただいた時には質問項目を基に各病院から聞いていく。圧迫面接的にならないように。部会として行うか、別の会として開催し、部会にて報告を行うか。発送はいつ頃にしていくか？

#### (意見・提案)

- ・まずは病院に依頼文を送り、どこの病院がきてくれるかによって検討する。日時は5月下旬～6月中旬予定とするのはどうか。その前に一度部会が開催できれば。もしくは第一回の部会と同日開催にするか。
- ・けんり・くらし部会(地域生活 Gr)の委員に、宝塚三田病院の相談員がいる。テーマとして同じ話も出ている。たまたま地域生活 Grでも精神障害の方に焦点をあてたワーキングも立ち上がっている。宝塚三田病院にも文章を送るので、同じ相談員が来るかもしれない。もともと、地域生活 Grと地域移行 Grは切り口が違う部分のあり、全く同じ部会としてではなく、部会を分けているがテーマによっては同じ内容を検討していることもある。もしかしたら同じ接点で地域を考えることができるかもしれない。テーマによっては横断的に地域生活の部会(又は部会長だけに来てもらう等)とも日程を合わせて開催できるのでは。詳細については事務局同士で話をしてもいいと思う。

⇒来年度の開催は案として決めておく。6月20日(水)13時30分～15時30分 進め方や当日の人数については今後細かく検討していく。発送は4月頃の発送予定とする。

### (4) 今後の部会の展開について~~~~~入所施設の話も部会で検討していく~~~~

#### (意見・提案)

- ・以前アンケートを行った際に入所施設(施設からの地域移行を希望)からの回答が一桁であった。障害種別によっても回答の出方が違うのではないだろうか。(以前のアンケートはそこまで課題をわけて掘り下げてなかった。)施設入所の場合、安心できる施設から出るには家族以外の支えが必要。施設入所しか選択肢がない状況。医療的ケアが必要な方についても今後はこのままグループホームまたは施設入所できるかわからない現状もある。地域移行をどういった視点で進めていくのかしっかり考えていかなければならない。その中で、24時間体制や地域生活支援拠点の必要性を改めて感じる。とにかく、困った時にここに相談したらいい、という明確な場所があるだけで安心感がある。
- ・作業所に日中通っている人は17時までは自分の居場所があり、一人の時間も少ない。しかし、17時～21時の間が一番不安になる時間帯。この時間帯に地域に根付いたカフェ等があればいいと思う。

その夕方～夜の時間に寂しくなる時間帯に立ち寄れる場所があるだけで違うと感じた。こむの事業所でもこういった時間帯へのサポートは検討されている。

- ・障害福祉サービスの使い方や種別を知らない方が多い。障害特性を理解していない相談員の勉強不足も感じられる。自分自身もどういった社会資源を使いたいのかサービス等についても調べ、自ら相談員に発信していくことも重要だと感じた。地域移行したくても、どうしたらいいかわからない人が多くいるのかもしれない。自らが抱えている方に発信、浸透されていくことが望まれる。

- ・生活拠点を入所施設かグループホーム、一人暮らしの選択肢の中から選ばないといけない現状。障害によっては本人の意向が把握できないケースや両親が施設でお願いしたいとの固定観念のある方もいる。色んな思いが存在する。我々の想いとは反して、本人の意向が伴わないケースもあるかもしれない。一方で施設や病院を必要としている方はいる。施設は超重度の方に特化していくように思う。病院はそれ以上に医療的ケアが必要な方が利用されるように感じる。施設入所の方が高齢化していくことにまだ対応できていない。

- ・民生委員は当事者が退院された後、つなぎ役として専門機関に気になることは相談している。地域包括支援センターや地区センターにて相談し、必要な声かけを行っている。また地域で毎週行っているサロンがあるが、ボランティアの担い手が少なく、運営ができなくなっている。地域の力をどのように引き出していくのかはこれからの課題。誰がやるかという話になってしまう。

- ・災害時の支援についても期待はされていない現状。今は親が何とかしているが、年齢を重ねていく今後のことがやはり引き続きの課題である。

⇒様々な地域の課題がある中、どのように地域で対応することができるのか、また次年度詳しく協議していきたい。

## 第5回 けんり・くらし部会 地域移行Gr (H30.2.13)

### 1. 障害福祉計画について～障害福祉課より～

計画策定担当より、宝塚市障害福祉計画（第5期計画）・宝塚市障害児福祉計画（第1期計画）の案の資料をもとに、けんり・くらし部会(地域移行Gr)に関係する事柄について説明があった。

(別添資料：宝塚市障害福祉計画（第5期計画）・宝塚市障害児福祉計画（第1期計画）案を参照)

80ページにて、障害福祉計画は何のためにあるのかを確認。81ページの第87条にて基本指針の確認。第88条で市町村福祉計画の核となる事項、サービス支給量の見込みを確認。86ページにてサービスの基本的な指針を確認。ここでは具体的な数値も示しており、92ページでは福祉施設の入所者の地域生活への移行の具体的な数値、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築の必要性、そして地域生活支援拠点の整備について示されている。

障害福祉計画・障害児福祉計画を策定にあたり、サービスの利用実態や利用者のニーズを適切に把握し、その意見を反映させるための措置として事前にアンケートが実施されたが、その集計結果が128ページから記載されている。特に153ページからは、今後の暮らしについての希望が記載されたもの

となっている。55 ページに戻り、このアンケートから現れた具体的な集計結果も基にし、具体的な数値化されたものが 22 ページ 23 ページにある成果目標の数値となってきた。また、51 ページ 52 ページには地域移行の現状の数値も記載されており、少ないことがわかる。第 5 期計画で必要な量の見込みは表で確認していただく通りとなる。

今の説明だけでこの場で意見をもらうことは難しいと思う。部会長や副部会長に意見を集約し、定例会で出してもらえればと思う。また、パブリックコメントも 3 月 2 日まで募集しており、市のホームページからも確認してもらえらる。障害福祉課の窓口にも用紙を置いている。いつでも構わないので意見をもらえればと思う。

## 2. 前回部会の振り返り、本日の部会について

部会長) これまで任意入院の方にスポットを当ててきた。任意入院は自分で退院したいと思えば退院できるはず。しかし、退院できない現状がある。任意入院の方への病院の関わりがどのようなものであるのかも分からず、病院から実際に聞き取りができたらとなった。そこで、話を聞くなら宝塚市民が多く入院している病院がいいのではとなり、以前保健所からいただいた資料を参考に、伊丹天神川病院、有馬高原病院、有馬病院、宝塚三田病院、ひょうごこころの医療センターの 5 つに声掛けしてはどうかという話になった。

日時については、部会とは別日程での開催を考えている。声掛けをしても何か所の病院が参加するかも分からないことから、人数バランスも考えていけたらと思う。

→委員の予定を確認し、6/22 (金) に決定。

依頼文について。

依頼についてだが、西宮など地域移行の進んでいるところの相談支援事業所に来てもらい、事業所の立場からの話をしてもらってもいいと思うのだが。

→「輪っふる」に声をかけることとなった。

○3 月末にある全体会であすなろの藤田さんに地域移行について話をしてもらう予定にある。そこで、実際の地域移行の話、うまくいった話もしていただく予定にはある。

○ピアサポーターの養成や人員の差が大きいと感じる。人数が多いと、動ける幅も広がる。宝塚市は、ピアサポーターの養成に力を入れていくこともこれからは必要になってくると感じる。これから宝塚市がどのような方向性に向かっていくのか、医師会との連携や事業所、ピアサポーター等色々な視点から考えていくことはできると思う。

○せっかくの機会なので、圏域より市に限定したほうが他市と比較できるのでは。

○困ったこととかだけでなく、うまくいったこと、よかったことも記載してもらえばいいのでは。

○発送方法に関しても検討していく。

やはり、仁明会病院にも来てもらえたらと思う

→仁明会病院にも声かけをすることで決定。

### 3.今後の部会の流れについて

部会長) 次年度は病院との懇談、意見交換会を行うこととなる。その後は、施設入所の方へのアプローチも進めていきたいと考えている。もちろん、病院との懇談会も1回行って終わりではなく、並行して何らかの形で継続できたらと考えている。施設入所している人の地域移行を考える際、入院している人とは違う課題がでてくるはず。課題を確認しながら、この地域移行 Gr で何ができるのか考えていけたらと思う。次年度の部会の開催だが、6/22の懇談会の前に第1回目の部会を開催できればとは考えていたが、事務局の体制が代わる可能性があることから、おそらく開催が難しいだろう。

市 障害福祉課) まだ確定事項ではないが、次年度は相談支援体制の充実を考えており、委託の相談支援事業所を増やしていく方向性にある。委託事業所には協議会の事務局をお願いしているが、委託先が増えることでどこの事業所にどの部会を担ってもらうのか、まだ調整段階にある。地域生活 Gr ではワーキングも発足しており、精神障害のことなど、この部会と重なってくる部分もある。次年度以降は、重なるところは事務局間で連携を取りながら横断的に進めていくことが望ましいと考えている。

部会長) 市から説明があったように、来年度第1回の部会を早期開催することは難しいが、意見交換会までにも、必要事項は随時各委員に伝えていくことができればと考えている。